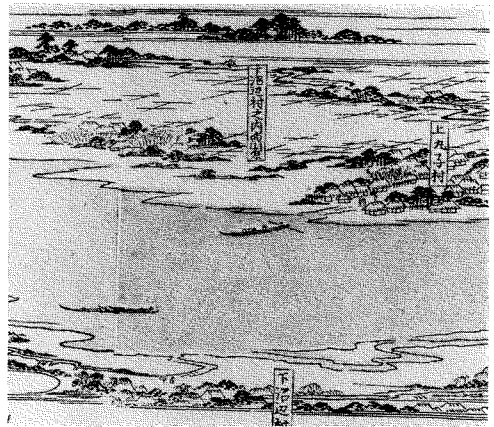
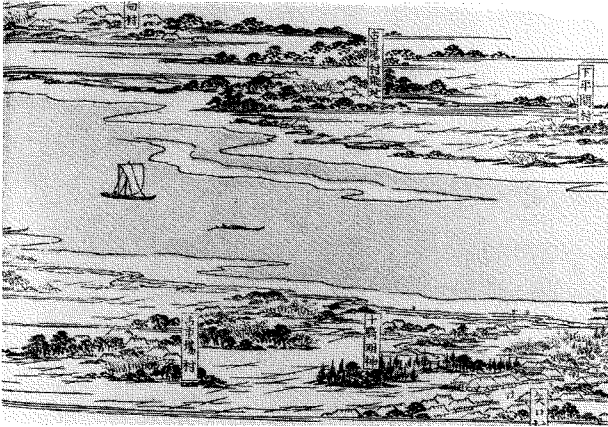


# あるむぜお

府中市郷土の森だより

No.36

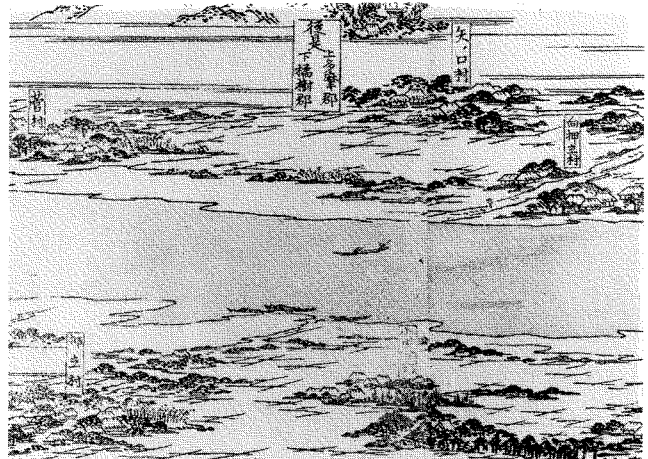
al museo



## 多摩川の風景4 川向うの村

橋のない大きな川は、交通の妨げになるはず  
です。実際、多摩川は東京と神奈川の県境、市  
や町の境界線になっています。ところが、江戸  
時代の『調布玉川絵図』(本館蔵)の長い巻物を  
たどってみると、川を挟んで同じ村の名前があ  
るのに気がつきます。古市場村ふるいちば(現・太田区)の  
南側対岸に古市場飛地ふるいちば、同じく下沼辺村には  
下沼辺村内向川原むこうがわ、という具合に。上流の青梅

にも日向和田村ひなたと日影和田村ひかげがありました。日  
向は日のあたる山の南側斜面という意味です  
から、川の北側です。渡舟を自在に使いながら、  
田や畑、落ち葉や枯れ枝を採る雑木林などのた  
めに、進出したり分家が出たりしながら、生活  
圏が川を越えて広がっていたのでしょう。府中  
にも押立村おしだてと向押立村むかひおしだて(現・稲城市)がありま  
すが、これは、大洪水で多摩川の流れが変わり、  
村が分断された結果とされています。(〇)



【展示会案内】 特別展 宮沢賢治生誕100年記念

1996年7月20日～9月1日

## 銀河鉄道の夜 ～それぞれの心象スケッチ～

「雨二モマケズ」「銀河鉄道の夜」などでお馴染みの、詩人であり童話作家の宮沢賢治。1996年8月27日は、その賢治の生誕100年目にあたる記念すべき日なのです。

「銀河鉄道の夜」は、貧しい少年ジョバンニが、親友のカムパネルラと共に銀河鉄道に乗って天の川を旅するという、ファンタスティック・ストーリーです。2人が旅の途中に出会う、さまざまな登場人物との関わりが興味深く描写され、賢治ワールドの神髄を感じとることができます。

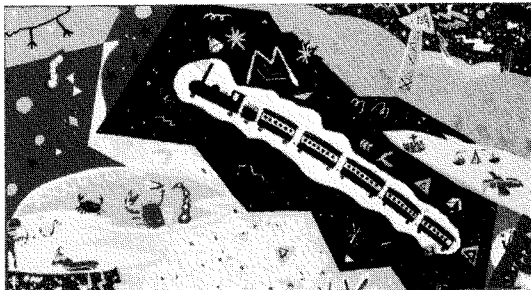
「銀河鉄道の夜」については、多くの画家が視覚化を試みています。

本展示会では、現在活躍中の絵本作家8人による、物語に関する作品100余点をご覧くださいと同時に、「銀河鉄道の夜」を多方面から捉え、楽しんでもらえるような内容を企画しています。それは、若き時代の賢治が記憶する、のちの銀河鉄道のモチーフともなった岩手軽便鉄道の精巧な模型であったり、実在する天の川における星雲星団の写真を紹介することでスケールアップさせていきます。

「銀河鉄道の夜」には、いくつかのキーワードが存在します。たとえば“地と天の合体”。賢治が故郷・岩手県を流れる北上川を見て、彼方天の川へとそれが続いていく様をイメージしたものです。あるいは銀河鉄道の出発点と終着点を表す“入口と出口”。これを北十字と南十字に見立てていることなど、それぞれの作品の背景にある賢治のイメージを念頭に置きながら鑑賞していただければ幸いです。

主な絵画作品には、宇佐美圭司の抽象油彩画「銀河鉄道」、物語の冒頭部分“午后の授業”から始まる長編童話を最も多く視覚化した、小林敏也・佐藤国男による「スクラッチボード」「木版画」を予定しています。また、現在の絵本画家に大きな影響を与えたと言われている司修が、「宮沢賢治童話集」に描いた13点の挿し絵をはじめ、物語を長さ3.8mの絵巻物で表現した遠山繁年のリトグラフ、天の川を車窓から捉えたタナカシゲルの絵画など、「銀河鉄道の夜」をイメージするには余りあるほどの作品が目の前に展開することでしょう。

さあ、あなたはいったい“銀河鉄道”にどんな思いを馳せるのですか？ (1) (敬称略)



遠山繁年 画「銀河鉄道の夜」より

### 関連行事 未就学児童はご遠慮ください

#### 特別展記念講演会

「時間と夢」 講師：松本零士（漫画家）

日時：8月4日(日)午後5時より

会場：プラネタリウム

料金：無料・往復はがきによる申込

#### 森のお話会—夏の特別会—

「宮沢賢治特集」

日時：8月25日(日)

午後3時より5時まで

会場：旧田中家住宅

料金：無料・往復はがきによる申込

#### 星と音楽の夕べ

「賢治から聴こえる音楽・チェロ演奏と星空」

演奏：木島 香

日時：8月17日(土)午後6時より

会場：プラネタリウム

料金：大人1,000円、子供500円

7月2日より電話予約受付開始

#### 速報！ プラネタリウム夏の新番組

宮沢賢治原作

### 銀河鉄道の夜

6月16日(日)～9月1日(日)

## ＝郷土の森の“小学校”にて＝

百葉箱の周りに桜の花が一面散っていたのは、ついこの前。今では花壇の紫陽花が雨にしつとりと濡れています。“旧府中町立府中尋常高等小学校木造校舎”は、北多摩随一の規模を誇って昭和10年(1935)に建設、以後40数回にわたる卒業生を送り出した後、その一部が郷土の森に移築・復原されました。展示されている昔の教科書やノートに、教室の古びた机や椅子に、足踏みオルガンに合わせた唱歌の歌声に、子供の頃を思い出して懐かしく感じられる方も多いと思います。



## ＝教育史の資料＝

郷土の森博物館では、教育史に関する資料を市民の方々のご協力を得て積極的に収集してきました。明治から現在に至るまでの市域の小中学校で用いられた教科書や副読本、ノートや問題集、答案や作文、図画や習字の作品、遠足や学芸会のプログラム、通信簿や賞状、学級新聞や給食の献立表などさまざまです。当館ではこの膨大な資料を、昨年度から再整理と調査を始めています。本講座のシリーズでは、その過程で気が付いたことを少しずつ書いていくつもりです。その上で、教育史資料のさらなる活用と収集・保存について皆様とともに考えていく機会にしたいと思います。

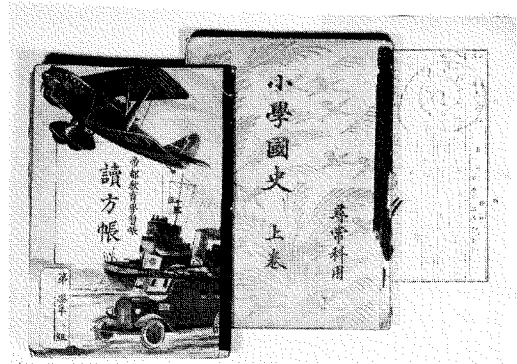
## ＝地域からの視点で＝

教育史の基本的な資料に教科書があります。

いつの時代にどんな教科書が使われていたかというのは興味深い問題です。特に、戦前は国が教科書を作る国定教科書、戦後は国が採用・不採用を決める検定教科書の制度がありますので、国家による教育の意図を教科書から読みとることもできるでしょう。各家から寄贈された教科書を科目別・年代順に並べて、記述の変遷を追っていくのもひとつの方法です。しかし、地域の博物館で教育史の資料を集めていく目的は、いつどんな教育を国が目指していたかを問うことではなく、地域の人たちがどんな教育を受けて、どんな学校生活を送っていたかを明らかにしていくことだと思います。しかも、子供たちによって、先生によって、村や町の社会によって、教育の受けとめ方はまちまちであつたはずで、さまざまな教育史資料を通じて、地域の学校生活の生彩な様子を、国家とは対極の位置で、追体験してみることはできないでしょうか。

## ＝“懐かしさ”を越えて＝

子供の頃の学校生活を、つらいとか楽しいとか懐かしいとか感じることは誰にもあります。しかし、こうした個人的な体験を越えて、体験を共有し、普遍化し、自己の立場を再確認しながら、その歴史的・社会的な意味を問い直していくことは、歴史を学ぶ上で重要な手続きだと思います。地域の博物館はそのための一つの場でありたいと願っています。(〇)



# 熊野神社裏の塚は古墳だった

深澤 靖幸

## 古窖発見

1884年6月21日発行の『武蔵野叢誌』16号に次の記事が載せられていることを、調布市にお住まいの石井隆さんから教えていただきました。

○古窖発見 去る六月中、大沢村にて古窖を発見したること八其頃の誌上へ登載せしが、今亦た本郡本宿村の熊野神社の後背に於いて一箇の古窖を発見したり。其構造の外は目方凡六七貫目程もある玉川石を以て一帯に積立、入口は大なる滑土及び石等にて掩ひ、夫より中を三区に分てり。初の二窖ハ左程大ならざるも第三の窖は大にして広さ凡六畳程あり。其周囲及び天井等悉皆滑土を切石様に切り出したるを以て恰も万世橋の装置の如く組立しは、能く建築法に適ひしものゝ如し。其堅牢鉄壁の如くにして如何にも戦国の落武者が隠遁せしものと想像る。洞中に二箇の白骨あり。側に鏝たる釘の如きもの幾個となく落散りありしハ甲冑などの腐れたるにはあらざるか。兎に角当地方ハ新田足利などの戦争も数度あり、名所旧跡にも富むところなれば世の好事家諸君が参考にもと其概略を記し置ぬ。

## 発見現場は熊野神社の裏

古窖が発見された「本郡本宿村の熊野神社」は市内西府町2丁目に鎮座する熊野神社のこと。その社殿の裏には、直径は36mほどの円形で、5mもの高さがある大きな「塚」があります。上に掲げた記事の現場は、この塚と考えると間違いありません。

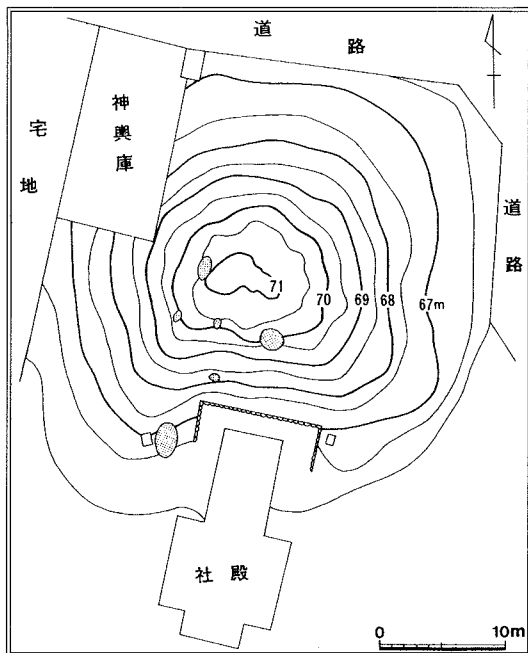
府中市史談会の協力で1985年に発行された『府中市旧名調査報告書』には、この塚には洞穴があって明治・大正期には中に入れましたが、関東大震災で陥没してしまったと記されています。

人が入れるほど大きな穴は、古墳時代後期の横穴式石室を想起させてくれます。しかし、その穴を現状では見ることができず、近隣に古墳の存在が確認されていないため、これを古墳と断定することは避けられていました。古墳と認定するには、発掘調査によって石室を確認する以外に方策はないと考えていたのです。

## 古窖は横穴式石室

記者はこの古窖を戦国の落武者の隠れ家と考えたようですが、その記事内容はこれが古墳時代後期の横穴式石室であることを物語っています。

まず、古窖は3区からなり、一番奥が最も大きいことが記されています。これは遺体を安置する玄室の前に2つの前室を設けたものと判断できます。次に、窖は切石様の滑土によってめがね橋のよう



▲熊野神社裏古墳の墳丘実測図

に精巧に組み込まれていました。滑土とはおそらく軟質の凝灰岩ぎょうかいがんのことでしょう。この描写から、切り出した軟質凝灰岩を丁寧に加工し、組み上げた様子が窺えます。外面が玉川石で覆われていたとあるのは、石室の入口を河原石でふさいでいた状況を記しているかと判断できます。

つまり、この古窖は玄室の他に2つの前室を備えた切石積の横穴式石室と見做せるのです。

また石室内には、白骨や錆びた釘のようなものが散乱していたとあります。記者は甲冑の腐ったものと判断していますが、古墳時代後期の古墳に甲冑が副葬されることはありませんから、これはおそらく鉄の矢じりや刀の類と考えるべきでしょう。

### 多摩地区でトップランクの豪族がいた

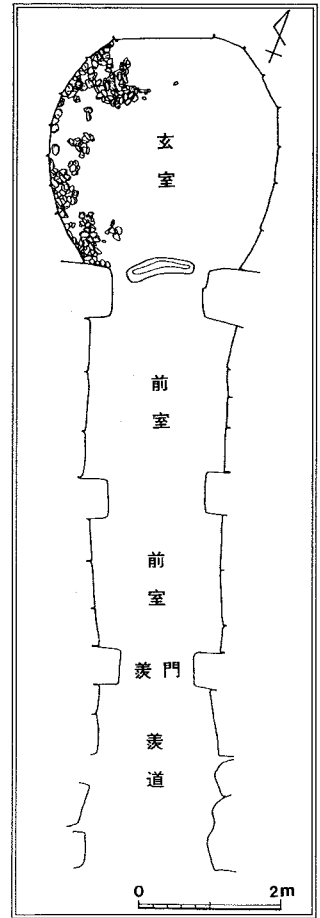
さて、記者の考察は、付近で繰り返された合戦という歴史的事実に引かれ、誤りを侵してしまいましたが、当時としては止むを得ないことです。それよりも古窖そのものの正確な描写をしたことに対して感謝するべきでしょう。その描写が、熊野神社裏の塚が古墳時代後期の古墳であることを証明してくれたのですから。

しかもこの記事は、ただ単に古墳の存在を明らかにしただけではありません。熊野神社裏古墳のように玄室の手前に前室を設けた切石積の横穴式石室は、多摩地区には類例が少ないのです。

府中市域では近年の発掘調査の進展によって、分倍河原駅の西方一帯（高倉古墳群）など2～3か所に、古墳時代後期の群集墳が展開していたことが明らかになってきています。このなかには横穴式石室を埋葬施設としたものも少なくないのですが、いずれも河原石を積み上げた小規模なものです。これは府中市域に限らず多摩地区の後期古墳の大きな特徴のひとつなのです。

これに対して切石積横穴式石室を持つ古墳は、多摩地区では表に掲げた4例にすぎません。いずれも玄室の手前に前室を設けていて、熊野神社裏古墳に似た構造を呈しています。この種の横穴式石室は、多摩地区では7世紀前半の築造と考えられていますから、熊野神社裏古墳も同時期と判断してよいでしょう。

これら切石積横穴式石室を持つ古墳は、墳丘規模も大きく、多摩地区ではトップランクに位置付けられています。とりわけ注目されるのは、熊野神社古墳と同様に2つの前室を備えた北大谷古墳きたおおやが最大の墳



▲熊野神社裏古墳の石室とよく似た北大谷古墳の石室平面図

### ▼多摩地区にある切石積横穴式石室を持つ古墳

古墳名	所在地	墳形	墳丘規模	墳丘高	石室構造	備考
東京天文台構内古墳	三鷹市大沢	円墳?	20×25m	2m	玄室+前室	
臼井塚古墳	多摩市和田	不明	不明	不明	玄室+前室	墳丘消滅
稲荷塚古墳	多摩市百草	八角形墳	対角径34m	2m	玄室+前室	都史跡
北大谷古墳	八王子市大谷町	円墳	径39m	2.1m	玄室+前室+前室	都旧跡
熊野神社裏古墳	府中市西府町	円墳?	径36m	5m	玄室+前室+前室	

丘を有していることですが、熊野神社裏古墳は墳丘の裾の部分が明らかに削られていますので、北大谷古墳に匹敵するか、あるいはそれ以上の規模を持っている可能性があります。また、洞穴が関東大震災によって陥没したということは、石室の天井石が崩れているのでしょうか、現存する墳丘は高く、きわめて良好な状態で残っていると推測されます。

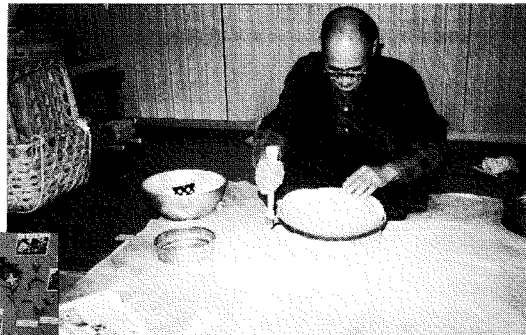
ようするに、熊野神社裏の塚は、多摩地区では最大規模の古墳だったのです。

これほどの規模と石室を持った古墳の存在は、多摩地区でトップランクの有力豪族が府中を根拠地にしてきたことを物語ります。武蔵国府が設置される直前の府中の状況を端的に示す存在としても、高く評価できます。まさしく新知見とあってよいでしょう。

「熊野神社の裏にある塚は古墳なのか？」は、付近の小学生たちからよく質問される事柄でした。「古墳かもしれない」といったあいまいな返答しかできませんでしたが、ようやく断言できるようになりました。『武蔵野叢誌』の記事の存在を教えてくださいました石井隆さんのお陰です。厚くお礼申し上げます。

※『武蔵野叢誌』は、1883～1884年に府中の成文社が発行した総合雑誌で、府中市立郷土館から『府中市郷土資料集1・2』として復刻されています。

# カメラ アングル



お馴染み、郷土の森体験館事業のひとつです。今回は多摩川の土手でつんだヨモギと、こめっこクラブが育てたおコメの粉を使った、ダンゴづくりです。さてさて、上手に作れるのかな？

多もぎたんごり  
4月13日



(写真、上から順に)

石臼で丹念に粉を挽き、ゆでたヨモギをすりつぶし、さあ、ヨモギダンゴを作りましょう。どっさりできたダンゴは残らず参加者のお腹へ。



# 百武彗星 見参!

3月25日 八ヶ岳山麓にて撮影

本年1月31日、鹿児島県在住の百武裕司さんにより発見された百武彗星は、3月中旬から4月上旬の間、地球に接近しました。その神秘的な姿を一目見ようと、多くのウォッチャーが東へ西へと奔走したのです。郷土の森の星空観測会にも参加者が殺到しました。

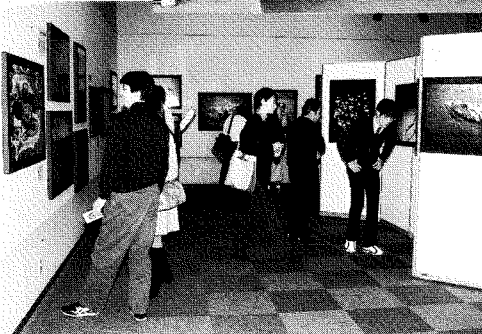
この百武彗星、再び地球に近づくのは1万4千年後になるとか……



## ワイルドライフ写真大賞展

1月28日～3月31日

世界的に認められた、自然を対象に撮った写真の数々。自然界の素晴らしさと、問題点が同時に観覧者の心を揺り動かしているようでした。



## 郷土の森の新刊案内

### ■府中市郷土の森紀要 第9号

「府中市内に生息するジグモについて」、「ムラのなかの社寺・ムラの外の社寺」、「武蔵府中における板碑の型式と組成」、「新編武蔵風土記稿」写本の書誌的検討の研究論文を掲載。 B5版 800円

### ■特別展「世界の昆虫博」解説書

カラフルな世界の蝶や、大型のカブトムシの写真を満載し、わかりやすく説明を加えた展示のガイドブック。 A4版 500円

### ■特別展「星座の文化史」図録

星座の起源から現在に至るまでの歴史を追った展示会の図録。西洋の星図や天球儀を中心に紹介。 A4版 1,000円

### ■旧三岡家長屋門移築修理工事報告書

復原建築物報告書第6集 A4版 6,500円

## 【平成7年度 寄贈・寄託資料一覧表】

### ■寄贈資料

	寄 贈 者	資 料 名	分 類	数 量	備 考
1	榎本吉重	千歯扱き 藁すぐり 他	民 俗	39	
2	鶴岡幸夫	長火鉢 方火鉢	民 俗	3	
3	相原丈三	石 臼	民 俗	1	
4	松村伸郎	台 秤	民 俗	1	
5	小沢義一	のし板	民 俗	1	
6	井上智恵子	土 鈴	民 俗	159	
7	高木錠助	鋸 鎌 キセル 他	民 俗	9	
8	吉住芳子	こけし だるま	民 俗	39	
9	横田喜作	柱時計	民 俗	1	
10	市川清	弓張り 鯉幟飾り 他	民 俗	57	
11	市川恭子	行季 御櫃	民 俗	3	
12	市川裕子	機織関係資料	民 俗	一括	
13	横山節	埴 塙 茅叩き	民 俗	2	
14	中田龍佑	着物資料 ひな人形 五月人形 他	民 俗	32	
15	斎藤信敏	関東大震災被災写真	歴 史	17	大正12年
16	陳野守正	尋常小学地理書 他	教 育	33	
17	長瀬衛	こくご一上 他	教 育	116	

### ■寄託資料

	寄 託 者	資 料 名	分 類	数 量	備 考
1	番場自治会連合会	番場宿御祭礼其外勘定台帳 大祭提灯使用控	歴 史	2	昭和5年~61年
2	斎藤信敏	雪中行軍遭難写真アルバム	歴 史	1	明治35年2月
3	岡村吉右衛門	冠冒形埴輪	考 古	1	鳥取県出土

## 【平成7年度の利用状況】 (H7. 4. 1~H8. 3. 31) 開園日数334日

区 分		有 料		無 料 (減免その他)	合 計
		一 般	団 体		
入 園 者	大 人	176,691人	10,178人	13,599人	200,468人
	子 供	47,655	21,033	2,803	71,491
	小 計	224,346	31,211	16,402	271,959
博 物 館 入 館 者	大 人	24,927	4,358	4,255	33,540
	子 供	9,623	10,854	265	20,742
	小 計	34,550	15,212	4,520	54,282
プラネタリウム 観 覧 者	大 人	39,721	4,307	1,684	45,712
	子 供	21,320	15,991	1,427	38,738
	小 計	61,041	20,298	3,111	84,450
合 計		319,937	66,721	24,033	410,691



# 埋納された中世の仏具

## 最近の発掘調査から

府中街道拡幅地区

塚原 一郎

府中街道の拡幅に先立つ発掘調査で、土坑に埋納された仏具が見つかりました。場所は宮西町1-21、かつての称名寺の境内と考えられるところです。

仏具が埋納されていた土坑は、23×38cmの長方形で、深さは33cm。底面はほぼ平坦でしたが、中央部に深さ7cmの掘り込みがあり、ここには粘土質の土が充填されていました。

出土した仏具は、花瓶2つと香炉1つの合計3点です。土坑の中に置かれ、そして埋められた状態で見つかりました。2つの花瓶が香炉を挟むように並び、なぜか香炉だけがうつ伏せて、底面よりやや浮いていました。

花瓶は、写真右側が「柑子口瓶」と呼ばれるものでした。これは口の部分が、ミカンの房が並んだ形に似ていることから付いた名称です。高台の部分には細かな文様が刻まれていました。左側の花瓶は、頸の部分に左右一對の管状の耳が付いた「管耳瓶」という種類です。耳の部分ははずれて、土坑のなかに落ちていました。香炉は、4本の脚があつて、写真では見えませんが、左右一對の把手のような耳が付いています。胸部には柑子口瓶と似た文様が刻まれていました。

これらの仏具は、中世に流行した“唐物写し”の製品です。ようするに、中国製品を模倣したメイド・イン・ジャパン。その制作年代は16世紀頃と考えられます。

さて、このような仏具は、ふつう花瓶・燭台・香炉の3点をあわせて「三具足」と呼ばれ、仏前に供える道具です。とりたてて、宗派や地方・時代によって使用状況に差の生じるものではありません。

しかし、今回見つかった仏具は、この「三具足」ではなく、花瓶2つと香炉1つという変則的な組合せでした。ただ、出土した3つの仏具をよく観察すると、柑子口瓶と香炉は非常に薄く作られているのに対して、

管耳瓶は厚く、重みがあります。柑子口瓶と香炉に刻まれた文様が似ていることを考えあわせると、もともとはこの2点がセットで、さらに燭台が伴っていたと推測されます。そして、何らかの理由によって燭台がなくなり、そのかわりに管耳瓶が加えられたのでしよう。

このような変則的な組合せでの使用例は確認されていませんので、どのように利用されたのか判りませんが、どちらかの花瓶が燭台の代替として使われたのかも知れません。

ところで、このような仏具のセットが発掘調査によって出土することは稀で、全国的にみても石川県穴水町や東京都日野市での出土が知られているにすぎません。



もともと、穴水町での出土品は三具足に鉢と器台が加わったもの、日野市で出土したものはまさに三具足で、ともに本来的なセット関係を備えています。したがって、出土事例からみても今回のような仏具の組合せは特殊なものといえるのです。

そして、興味深いのは、穴水町例と日野市例の両者が、今回府中で出土したのと同様に埋納された状態で見つがっていることです。なぜ、壊れたわけでもないのに埋める必要があつたのでしょうか。

出土地点周辺の発掘調査や、仏教の作法や儀礼の研究の進展によって、こうした謎が解けることを期待したいと思います。

あれこれ

## アユの話

山梨県と埼玉県との境界に位置する笠取山より実に134キロの旅を続け、大田区羽田の東京湾に注ぐ多摩川の流れ。古くから江戸や東京の飲料水源として取水され、かつ人の暮らしに密着した歴史をもつ非常に重要な自然環境と言えるでしょう。川の中流域に位置する府中でも、多摩川は様々な生物の生息域であると同時に、人々のレクリエーションの場としても機能しています。川への関心度が高まる折、昨年8月より郷土の森園内復興建築物のひとつ、旧第一小学校内にオープンしている「多摩川ふれあい教室」は、多摩川の水や水辺の生物、川と人との関わりについての情報が広く提供され、すでに1万人以上の行事参加者を記録しています。ぜひ一度は覗いてみてください。本号より、そんな川をテーマに、あれこれと思いつくまま……

今回は魚の話。多摩川で有名な魚は何と言ってもアユでしょうか。多摩川は江戸時代よりアユの名産地として知られていますが、幕府に献上する上納鮎の制度があった頃は、鮎飛脚が甲州街道を江戸城まで直送していたそうです。また、多摩川の漁撈技術を向上させ、瀬張り網漁法や鵜飼などが発達したことも、アユの功績と考えるのもいいでしょう。

さてこのアユですが、元来、一生の間に川と海を行き来する両側回遊型りょうそくかいゆうがたと呼ばれる魚であります。動物は多かれ少なかれ、一生のうちに旅をします。それは北極から南極に至る1万数千メートルに及び渡り鳥の長旅であったり、宿主を次々に移りすむ寄生虫のようなものもあります。このような動物の旅を“渡り”“移動”等の言葉で表し、魚では“回遊”と言います。これは自己の成長のための生育場と、子孫を残すための産卵場との往復なのです。

アユは秋が深まる頃、川を下って河口の砂礫

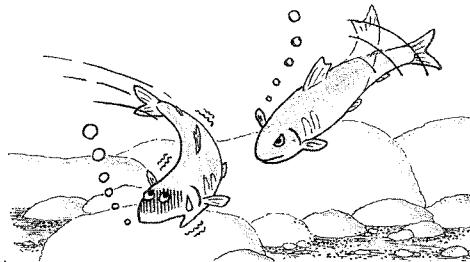
に卵を生みます。やがて1～2週間ふかで孵化した仔稚魚しちぎよは、流れに乗って海に出ていきます。海中生活時代は、沿岸表層域から波打ち際、さらに河口域と生息場せいじやうを移動し、成長したアユは春になって川を遡上し始めます。川に戻ったアユは、俗にコケと言われる岩に付着する硅藻類けいざうを食べ大きくなりますが、この餌場えさを占領したアユは縄張りを形成し、領地に入る仲間を片っ端から追い払うという行為をとります。いわゆるアユの縄張り争いです。この習性を利用してアユを釣るのが、オトリアユを使った「友釣り」であることは御存知のことでしょう。こうした苛烈な生存競争の中で成長したアユは、再び産卵のために川を下り、海へと向かうのです。

また、海的生活とは無関係に一生を湖の中だけで終える、陸封型と呼ばれるタイプもあります。琵琶湖のコアユがよい例で、その名のとおり最大10センチ程にしかなりません。産卵もほとんどが湖岸の砂礫で行います。ところが、大

正初期にこの湖産のアユを多摩川に放流した実験で、河川産のアユと同等の大きさに成長することがわかったのです。以来、人工的な陸封型しゆひょうけんのアユを種苗源とする放流が、養殖事業として成立するようになりました。ただし、近年のダム建設に

より遡上を阻まれ、上流の好適な環境条件に到達が不可能となる問題なども表面化しています。

現在の水産技術は、海を知らないアユを大量に飼育することも可能にしました。本能である“旅”を行わずして大人になってしまうアユを、皆さんはどう思われるのでしょうか。(N)



### あるむせお 第36号

al museo イタリア語  
“博物館で” “博物館にて” の意  
発行日 1996年6月20日  
発行 (財)府中文化振興財団  
府中市郷土の森  
〒183 東京都府中市南町6-32  
☎0423-68-7921